

第2回鶴岡市総合計画審議会 会議概要

- 日 時 令和5年5月26日(金) 午前10時00分から
- 会 場 グランドエルサン ローズルーム
- 協議事項
 - ・第2次鶴岡市総合計画後期基本計画の策定の視点について
 - ・未来創造のプロジェクトの今後の方向性等について

<協議事項での委員発言の概要>

【5つの加速化アクション(仮)】

①若者・子育て世代に選ばれるまちづくり

- ・高校生を対象にしたワークショップで、高校生もきちんと自分の将来のことを考えていることをとても強く感じた。こういうものを発信していくことが大事だと感じた。
- ・婚活イベントは敷居が高い。もう少しフラットな感じで、皆でいろいろな企画やボランティアをした後に飲食をともにするということから、男女の深まりができるのではないかと。
- ・高校生たちは「何にもない。こんなところ嫌だ」と言って、大学に行って帰ってこない子たちがたくさんいる。それはきっと親もそう思っていて、「こんなところ何にもなくて、買い物に行くところもないし、遊ぶところもない。」と家でたぶん言っていると思う。あまりマイナスなことを言わないで、「ここ、いいよ」という発信を皆でして、次世代に伝え、子どもたちがここで生きたい、鶴岡を守っていきたいとなってほしい。
- ・鶴岡は、これまですごい人を輩出している。これを自信に思っただけで私たちが生き、子どもたちも自信を持ってこの街を引き継いでいきたいと思えるような発信をしていけたら良い。
- ・男女の出会いに関して、地方都市こそデジタル技術を活用して変えていかなければならない。出会いの仕組みのデジタル化はいいと思うので考えてほしい。
- ・駅前留学で英語を学ぶ時代ではなくて、駅前留学でコミュニケーションやお笑いを学ぶようなスクールを作ったら面白いのではないかと。あからさまに出会いを目的にした場を作るのではなくて、別の目的のイベントやコミュニケーションを学ぶスクールができると、そこでの出会いの確率が上がるのではないかと。
- ・婚活イベントでは、女性の参加者は少ない。もっとフラットにコミュニケーションを取れる場が必要。
- ・高校生のワークショップは非常に良い。若い人たちに、鶴岡の将来のことを考えてもらわないと、残ってくれない。それを経験しないで大学に行くと、地元には仕事がないので大学のあるところで就職しようとなる。地元に戻って来ようという気持ちは、こういうワークショップや話し合いなど、自分のふるさと鶴岡をどうしていくのかという議論を若いときからしていくことが大学に行っても若者を呼び戻す一つの要因になると思う。こういうものを多く取り組んでもらうと良い。

②SDGs未来都市の実現

- ・縦割りを超えてどうやって地域包括ケアを推進できるか、地域包括ケアは、高齢者だけではなく、生まれる前の赤ちゃんから亡くなるまでのことなので、行政の機構改革と併せてできるとより連携がスムーズに進むのではないかな。

③産業振興と人材育成

- ・鶴岡市は製造関係が多い地域で、工業系の卒業者には有利かもしれないが、それ以外の人が出ターンで帰ってきたときに仕事を探すとなかなか就職先が見つからない状況だと思う。そのあたりに力を入れるような動きをしてほしい。
- ・地震や台風などの災害を考え、第2の工場候補地として日本海側の都市、鶴岡も含め見ていることも多い。これには鶴岡には高等教育機関が多くあること、大震災の影響が少なかったことなどがある。市としてもPRにもう少し力を入れてもいいと思う。
- ・市内に勤める優秀な人材が会社を辞めた時に、鶴岡や庄内地域以外に出ていくことがある。一端掴んだ人材を逃さないことも大事で、どんどん中で回っていけば賃金が上がっていく。庄内の中でそれができる仕組みが欲しい。それにデジタル化や企業誘致の話が結びつくと良い。
- ・今、西川町でサウナを中心にしたまちづくりを行っている。例えば、山奥の僻地にサウナを作って、そこで滝つばに飛び込めるような体験を提供するなど、初期設置も安くコストパフォーマンスが良い。庄内はサウナのポテンシャルの塊であり、鶴岡市でもサウナを増やした方が良く思う。
- ・民間事業者からみた地域の可能性は何かと言うと、絶対に開発ができないエリアを開発できるようにするという。規制緩和を進めることが行政の一番の役割だと思う。
- ・今、農業は人手不足になっており、障害者の人たちは未だに作業所で内職のような仕事を月に数千円の工賃でやっている。そういう人たちが農業に携われるような仕組みができないか。農福連携について福祉サイドが考えると限界があるので、農業を担当するセクションが考えるともっと違う展開があると思う。農福連携の取組を加速化アクションの「SDGs未来都市の実現」ではなく、「産業振興と人材育成」に書き込むことにより、地域包括ケアに伸びていく。
- ・地域包括ケアについては、まだ縦割り感が否めない。役所が持っている問題解決機能が縦割りになっている。それを解消していくためにも、施策全体の中に福祉的な視点を書き込んでいくことが必要。農福連携をもう少し検討いただきたい。
 - ・今ここに住んでいる人たちが本当に生き生きと暮らせているのか、可能性のある潜在能力のある人々を繋げられているのか、あらゆる場面で福祉と繋ぎ、福祉も今変わらなければならないと思う。
 - ・時代は本当に変化しており、共生社会という時代が来たことを感じている。障害を持っている人、ひきこもりの人などと、協働することから始まるのではないかなと思う。

⑤総合的なデジタル化戦略の推進

- ・農業後継者のための婚活サイトがあるが、そのサイトにさえたどり着けない人がいる。デジタル化については、操作ができない人に対してのフォローアップをきちんとやってもらいたい。
- ・「総合的なデジタル化戦略の推進」は、何をやるのかが非常に分かりにくい。例えば、市としてペーパーレスにする運動を起こすなど、具体策を明示していった方がより計画としては進んでいくと思

う。

- ・デジタル化を鶴岡市でこれから伸ばしたい産業、あるいは婚活や交流といった政策の中のどこに結びつけるのかをしっかりと見ていく必要がある。
- ・市民生活を守るための地域社会という視点で、デジタルをどう生かしていくのかガイドラインのようなものを、調査研究も含めて進めていかなければいけない。

コロナ関連

- ・コロナに関しては一般的な話ではなく、鶴岡でどういうところが影響を受けて、どういうことがあったのかをしっかりと理解した上で、今後別のアクションをとるのか、深追いをやめるのか、あるいは数値目標を半分にするのかなど、具体的な判断があった方がいい。
- ・一般論ではコロナの影響を分かっているつもりだが、鶴岡市内で実際にどういうことが起き、そしてこれからどういうことが起こっていくのか、何が変化したのかを包括的に整理してもらえたらと思う。
- ・コロナによって生活が困窮した人たちに、3年間、緊急小口資金として貸し付けをさせていただいた。償還が始まったが、相当大きな影響を受けており、まだ生活は戻らない感じだ。
- ・町内会行事が2年間ほとんどストップした。5類になったので、復活しようとなるかもしれないが、2～3年、何もしなかった自治会がまた昔と同じように活動を戻せるかというところ、それはなかなか難しい。1回やめてしまった行事をまた復活させるのは難しい状況になっており、コミュニティが今後どうなっていくのか非常に心配している。

計画の進捗評価

- ・計画の進捗評価の要因分析に当たっては、コロナがなかったらどうなっていたかも考えてほしい。
- ・KPI、進捗状況の評価について、今後何をしなければならぬのか、もう少し切り込んだ評価が必要。
- ・総合計画は、行政が行うことについての市民との約束事。市民に伝えるために、見える化が一つの手法であり、それによって市民も行政、議会へ関心を高めていくことに繋がるのではないかと。

その他

- ・地域課題は、地域固有の様々なものがある。市民の意識変化をどう捉えていくか、多様化した課題をどう取り上げて、どうまとめていくかが課題だと思う。
- ・課題の背景を掘り下げていくと、市全体の複合的な課題に結びつくことがあると思う。課題の背景をよく掘り下げ、政策課題として捉え、政策化・施策化に結びつけていくべき。
- ・色々な人がプロセスに参画することによって、色々良いものができたり、オンリーワンができたり、この地域ならではのものができたりする。そこを横断的に、行政の施策として、規制緩和もあるが、民間がまず連携してよく対話をしてやるのが大事だと思う。
- ・一番大事だと思っているのが、総合計画を推進する市役所の人が楽しんでいるかどうかというところ。これを進めている人が本当に楽しいと思っているか。その気持ちが市民に伝播すると思う。
- ・市職員の経験を地域の民間企業や団体、組合に副業やパラレルワークのような形で入れていくような検討はできないか。

- ・今、地方企業の最大の課題は人材が採れないこと。今の市役所の働き方においてもそういった兼業・副業人材など、Cx0の考え方というのは、市役所の活性化のためにすごく有用な手段ではないか。
- ・総合計画の事業が楽しく進められるためにも、市職員の経験やパラレルワークといった可能性を模索し、いろいろな世界を自分のごととして見てもらいたい。また、市役所としていろいろな人材をもっと引き入れるような体制構築をしてもらおうと、もっと上手くいくのではないか。
- ・鶴岡には給食発祥の地とか、初めての取組がたくさんある。鶴岡が初めてやったことが大事だと思う。鶴岡がチャレンジングに初めてやったことを市民が誇れるように育てていけたらと思う。

< 了 >